



岩手県教育研究所連盟事務局
 岩手県立総合教育センター
 〒025-0395 花巻市北湯口2-82-1
 平成30年3月23日発行 第18号
<http://www1.iwate-ed.jp/kenkyouren/>



加盟機関の皆様と共に

岩手県教育研究所連盟 会長 藤岡 宏章

(岩手県立総合教育センター所長)

日差しも和らぎようやく春の訪れを感じるころとなりました。県教育研究所連盟の会員の皆様におかれましては、本年度の県教連の事業の推進にご尽力いただきまして、誠に有り難うございました。

昭和33年に発足した岩手県教育研究所連盟も、今年で発足61年目を迎えます。当連盟では県内各地の教育研究機関が連携を密にし、教育に関する調査・研究を充実させ、本県教育の推進、向上に寄与することを目的として活動して参りました。

今年度は5月に定期総会、協議会、9月に研修会を開催いたしました。研修会においては、文部科学省国立教育政策研究所 教育課程研究センター基礎研究部長(併任) 初等中等教育研究部長 猿田 祐嗣氏をお招きし、「次期学習指導要領を見据えた授業改善の視点について」のテーマでご講演いただき、新学習指導要領改訂の社会的背景やポイント、授業を改善する視点等についてご教授いただきました。

また、今年度の岩手県教育研究発表会(2月8日・9日)では、盛岡市、雫石町、八幡平市、北上市、奥州市、遠野市の6つの教育研究所から10本の発表をいただきました。各所の研究成果の発表が、各校での確かな実践に繋がっていく機会になりましたことに感謝申し上げます。また、加盟機関の皆様のごたくさんの参加いただきましたことにも重ねて感謝いたします。

東日本大震災の発災から7年の歳月が経ちました。社会では風化が懸念される中、学校では各校の実態に合わせた「いわての復興教育」が展開され、児童生徒に確かな力を育てているところです。今後も「郷土を愛し、その復興・発展を支える人づくり」の目的を共有し、一層の推進を図っていくためにも、教育の専門機関としての当連盟の役割は益々重要となります。加盟機関の皆様との情報交換、連携を図りながら、岩手の教育のために尽力して参りたいと存じますので、よろしくお願いいたします。

■平成29年度定期総会の報告■

平成29年5月12日(金)、総合教育センターにて、平成29年度岩手県教育研究所連盟定期総会が開催されました。

総会では、昨年度の事業報告並びに決算報告が行われ、今年度の役員案、所員研修会、岩手県教育研究発表会等の事業、予算案が承認されました。

承認いただいた平成29年度の役員は右のとおりです。

会 長	藤岡 宏章	県立総合教育センター 所長
理 事	小山田 秀次	盛岡市教育研究所 所長
	沼田 弘二	花巻市教育研究所 所長
	三上 えり子	山田町教育研究所 所長
	福士 幸雄	県立総合教育センター 研修部長
監 事	侘美 淳	紫波町教育研究所 所長
	村松 康志	矢巾町教育研究所 所長
事務局	県立総合教育センター企画担当	
	坂本 大	主任研修指導主事
	佐藤 禎信	主任研修指導主事
	佐々木 淳	研修指導主事
	後澤 大世	研修指導主事
	吉田 幹伸	研修指導主事
	勝馬田 彩音	主事

■ 平成29年度研究協議会 ■

今年度の研究協議会では、全体会Ⅰで総合教育センターの今年度の取組の重点について、各加盟機関にお知らせしました。分科会では、各研究所から事前にアンケートをとり、それをもとに3つの分科会を構成し、それぞれのテーマにかかわって協議しました。全体会Ⅱでは各教育研究所の活動報告及び情報交換を行いました。

【全体会Ⅰ：総合教育センターの取り組みについて】

■ 教育センターの研究について

主任研修指導主事 鈴木 徹

■ 教育センターの研修について

理科教育業務について

主任研修指導主事 村上 弘

■ 情報・産業教育業務について

主任研修指導主事 三田 正巳

■ 教育支援相談業務について

主任研修指導主事 近藤 健一

■ 岩手県教育研究発表会について

研修指導主事 後澤 大世

【分科会】

第1分科会 「授業力向上・学力向上について」

第1分科会では、授業力向上・学力向上について協議が行われました。

授業改善・学力向上に向けた取組や、課題が各研究所・教育センターから紹介され、諸調査の分析と活用の仕方について情報の共有が図られました。また、授業改善は進んでいるが、学力向上は進んでいるとは言えない現状を、どう変えていくかが話題に上がり、活発な意見交換がなされました。家庭学習の充実が一つのキーワードとして挙がりました。



第2分科会 「不登校・適応指導教室について」

第2分科会では、不登校対策としての適応指導教室の運営、事例を中心に情報交換が行われました。

適応指導教室が子どもたちの居場所として役割を果たしている、所属校と保護者との連携をとることが学校復帰に向けて大切である、などの意見交換がなされました。また、適応指導教室に通うことができていない子どもたちへの支援の在り方、特別な支援を必要とする子どもへの対応の在り方等について協議、情報交換がなされました。



第3分科会 「異校種間連携（幼保小中高）について」

第3分科会では、異校種間の連携の必要性と推進するにあたってのポイント等について情報交換が行われました。

異校種間連携は、高校から中学校へ、中学校から小学校へのように上級学校からの働きかけがあると連携をとりやすいのではないかと。校種を越えて互いの授業を見合うことで、職員間の垣根が低くなっていくのではないかと。などの意見交換がなされました。また地域を巻き込んで活動等についての情報交換がなされました。



■ 平成29年度 岩手県教育研究所連盟研修会 ■

9月19日（火）に、岩手県立生涯学習推進センターを会場に教育研究所連盟の研修会が行われました。講師に国立教育政策研究所 教育課程研究センター 基礎研究部長 猿田 祐嗣 氏をお招きし、「次期学習指導要領を見据えた授業改善の視点について」ご講演いただきました。

研究所連盟の皆様だけでなく、県内各地から100名を超える先生方に参加いただき、新学習指導要領改訂のポイントとそれを踏まえた授業改善について学ぶことができ、実りある研修会となりました。

講演では、始めに、国立教育政策研究所で作成した「資質・能力を育成する教育課程の在り方に関する研究報告書1」にある「21世紀を生き抜くための資質・能力」について触れていただき、思考力、基礎力、実践力が求められているこれからの社会情勢、今後の国の教育の方向について解説をしていただきました。新学習指導要領においても育成すべき資質・能力として知識・技能、思考力・判断力・表現力等、主体的に学習に取り組む態度の3つの柱が示されることになったのは、この研究報告書の成果が参考となったこと等の背景についてお話いただきました。

授業改善については、猿田先生がTIMSSの論述式問題の特徴を分析された際に示した「思考力・判断力・表現力」を育成するための指導における児童生徒の学習活動分類①～④の指導について解説していただきました。

- 分類① 答えを書かせたり、選択肢から答えを選ばせたりした後、そう答えた理由を書かせる。
- 分類② ある事象の原因や理由を書かせる。
- 分類③ 問題文や図表から読み取った事項をまとめさせたり、自分の考えを書かせたりする。
- 分類④ 特徴・条件・例などを挙げさせる。

例えば、(図1) 分類①②の問題例では、「一人一人に考えを持たせる。」「一つの答えで満足させない。」「答えの理由(根拠)を持たせる。」等の指導の視点が大切であること、(図2) 分類④の問題例については、「体験や学習事項に結び付ける。」「身の回りの事象を導入・発展に使用したり、見出した原理・法則に関連する事象に結び付けて考察させる。」等の指導が大切であることを児童生徒に期待する解答例を具体的に示しながら解説していただきました。

『もっと知りたい、もっとできるようになりたい』という児童生徒を育てることが、資質・能力を育むことにつながっていきます。後天的な能力についてはもちろん、先天的な資質についても児童生徒個々の長所としてさら伸ばしてあげることが教育の役割です。」とのことばをいただきました。今後の授業づくりについて学ぶことができた貴重な時間となりました。



下の絵にかかれてある回路では、電球に明かりがつきませんでした。

1つの理由として、電球が切れていることが考えられます。
電球がつかない理由として、考えられることをもう1つ書きなさい。

(図1) 分類①②の問題例

太郎さんは、未知の個体を手に入れました。
この物質が金属であるかどうかを知るには、どのような性質を用いて調べますか。説明してください。

(図2) 分類④の問題例



■ 平成29年度（第61回）岩手県教育研究発表会 ■

平成30年2月8日（木）、9日（金）の2日間の日程で岩手県教育発表会を開催しました。昨年度に引き続き「確かな学び、豊かな学びをつなぐ」をテーマに設定し、講演、総合教育センター研究発表、各分科会において、新学習指導要領の理念を踏まえた「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」の方向性について理解を深めることができた研究発表会でした。日程は下記の通りですが、詳細につきましては、岩手県立総合教育センターWebページ（調査・研究「岩手県教育研究発表会」）をご覧ください。

【2月8日（木）】場所：花巻温泉，岩手県立総合教育センター，岩手県立生涯学習推進センター

◇講演会

「資質・能力を育むための『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善」

（講師） 京都大学教授

高等教育研究開発推進センター教育アセスメント室長 溝上慎一氏

◇研究発表

「資質・能力の『三つの柱』を総合的に育む授業の在り方に関する研究
～主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して～」

◇特設分科会（3分科会）

特設分科会1「知」 特設分科会2「徳」 特設分科会3「体」

◇分科会（2分科会）

異校種間連携／学校経営 幼児教育／幼小接続

【2月9日（金）】場所：花巻温泉，岩手県立総合教育センター，岩手県立生涯学習推進センター

◇分科会（16分科会）

国語 算数／数学 社会／地理歴史・公民 理科 図画工作／美術

音楽 体育／保健体育 家庭／技術・家庭 外国語活動／外国語

道徳 特別活動／キャリア教育 情報教育 総合的な学習の時間／小規模・複式指導

教育相談 特別支援教育 いきる・かかわる・そなえる（いわての復興教育）

総合教育センターをご活用ください

総合教育センターでは、要請研修、随時研修、どようび研修など様々なニーズに対応しています。詳細については各担当までお問い合わせください。

■ 企画担当 0198-27-2833

教育図書・資料の収集・提供、カリキュラム・マネジメント、いわての復興教育に関する内容

■ 教科領域教育担当 0198-27-2735

幼児教育から小学校・中学校・高等学校の教科・領域等の指導に関する内容

■ 理科教育担当 0198-27-2742

小学校・中学校・高等学校の理科の指導に関する内容

■ 情報・産業教育担当 0198-27-2254

情報教育、視聴覚教育、技術・家庭科、高校専門教育に関する内容

■ 教育支援相談担当 0198-27-2821

幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校における個別又は集団の教育支援に関する内容

センターWebページでは、教育研究、学習指導案、研修講座関連資料等各種教育情報を提供していますので、こちらをご覧ください。